Konica

取扱説明書

Digital Revio
KD-300Z

お買い上げありがとうございます。
このDigital Revio KD-300Zは、総画素334万画素CCD（有効画素数324万画素）を搭載した高画質デジタルスチルカメラです。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取扱いで末永くご使用ください。

SDメモリーカードまたはマルチメディアカード*をお使いください。
本書では、これらのカードのことを「メモリーカード」と称しております。

＊MultiMediaCard™は、ドイツInfineon Technologies AG社の商標であり、MMCA（MultiMediaCard Association）へライセンスされています。

目次

安全に関する表示について

この取扱説明書では、このカメラを安全に使用していただくために、次のような表示をしています。内容をよくお読みいただき、正しく使用してください。

⚠ 注意	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が傷害を負う危険および物的損害の発生が想定されることを示します。
⚠ 警告	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う危険性が想定されることを示します。
⚠ 危険	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う危険性が切迫して想定されることを示します。

使用上のご注意

〈カメラ使用上の注意〉

- このカメラは防水機構になっていませんので、雨天や水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。
- 撮影レンズ、測光窓などを指紋などで汚すとカメラの精度に影響を及ぼしますので十分注意してください。もし汚れた場合はむやみに拭かず、セーム皮や市販の眼鏡拭き用紙などで軽く拭く程度にしてください。また、ゴミやホコリはブロアーで吹き飛ばすかレンズ刷毛で払うようにしてください。
- 本体の汚れを落とすときは、柔らかな布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は本体破損の原因になりますので絶対に使用しないでください。
- 撮影や再生直後など、カードアクセスLEDが点滅しているときは、SDメモリーカードまたはマルチメディアカードを取り出さないでください。
- 強力な電磁波を発生させる場所（テレビやスピーカーのすぐ近くなど）では、画像が乱れて記録されたり、再生画像が乱れることがあります。
- 太陽に直接カメラを向けて撮影しないでください。カメラのCCDを損傷します。
- カメラを落下させたときは、外観に異常がなくても、内部が破損していたり、はずれている場合があります。必ず当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。
- 液晶モニターの画面を強く押したり、先の細いものでついたりするなど、強い衝撃を与えないでください。液晶モニターのガラスの破損など故障の原因になります。
- カード着脱部の内部には触れないでください。故障の原因となります。

⚠ 注意	● 海岸やほこりの多いところでの撮影後は、カメラをよく清掃してください。潮風は金属を腐食し電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙、発火を起こすこともあります。また砂ぼこりは内部機構の作動不良を起こします。 ● 寒いところから急に暖かい室内に持ち込むと、レンズやカメラ内部に水滴がつくことがあります。（結露現象）水滴は電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙、発火を起こすこともあります。急激な温度変化はできるだけ避けてください。結露が生じたときは直ちに電源を切って、結露がなくなるまで放置してください。 ● カメラは精密な電子機器です。電子回路の断線による発煙・発火や機構の破損の原因となる落下や衝撃は避けてください。 ● **海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは前もって作動の確認、またはテスト撮影をして正常に記録されていることを確認してから使用してください。**

⚠ 警告	● カメラや電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、速やかに電池を取り出してください。火災や火傷の原因となります。（電池を取り出す際、火傷には十分ご注意ください。） ● 本機内部には高電圧回路が組み込まれています。落下などでストロボ部が破損したときは、内部には絶対に手を触れないでください。感電する危険があります。 ● カメラを分解・改造しないでください。高電圧がかかり、感電するおそれがあります。 ● フラッシュを人の目（特に乳幼児）に近づけて、撮影しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。 ● カメラで太陽や強い光源を直接見ないでください。視力障害を起こす危険性があります。 ● 移動しながらの撮影はおやめください。特に光学ファインダーや液晶モニターを見ながら移動すると事故の原因になります。 ● 撮影中は被写体に気をとられすぎずに、周囲の状況にも充分注意をはらってください。

〈リセット機能について〉

このカメラは、外部の強力な電磁波や静電気等に対して極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。このような場合は一度電池を取り出し、再度入れ直してからご使用ください。

〈カメラの保管について〉

- 熱い場所（夏の海辺、直射日光下の車内など）に長時間置いておくとカメラやＳＤメモリーカードまたはマルチメディアカード、電池等の性能を低下させ、故障の原因となりますので放置しないでください。
- カメラを長時間使わないときは電池を取り出しておいてください。電池の液漏れなどによる事故を防ぎます。

⚠ 注意	● カメラは湿気やほこりのある場所や防虫剤のあるタンス、実験室のように薬品を扱うところを避け、風通しのよいところに保管してください。電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。

〈リチウムイオンバッテリーパックのご注意〉

⚠ 注意	● 水、雨水、海水などにつけたり、濡らしたりしないでください。発熱、発煙、発火、感電の原因になります。 ● 濡れたバッテリーパックを使用・充電しないでください。発熱、発煙、発火、感電の原因になります。 ● 幼児の手の届く場所には置かないでください。けがなどの事故の原因になります。 ● 強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。液漏れの原因になります。 ● できるだけ、常温（20℃ ±5℃）でご使用ください。夏期や冬期、閉め切った車内に放置するなど極端な高温や低温環境では電池の容量が、低下し使用できる時間が短くなります。また、電池の寿命も短くなります。 ● バッテリーパックを使用しない場合には、湿気の少ない場所に保管してください。

⚠ 警告	● 電子レンジや高圧容器に入れないでください。液漏れ、発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。 ● 液漏れしたバッテリーパックを使用しないでください。バッテリーパック内の液が人体に付着すると傷害を起こす恐れがあります。万一、付着したらすぐにきれいな水で洗い流してください。 ● 破損したバッテリーパックを使用しないでください。発熱、発煙、発火、感電の原因になります。

⚠ 危険	● 高温になる場所（火のそば、ストーブのそば、炎天下など）や引火性ガスの発生するような場所での充電・放置はしないでください。発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。 ● バッテリーパックの（＋）（－）端子を金属物などでショートさせないでください。発熱、発煙、発火の原因になります。 ● カギ、ネックレス、コインなどの金属物と一緒に保管はしないでください。金属片などと端子が接触してショートする恐れがあります。 ● 火の中に投入したり、加熱しないでください。発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。 ● 分解や改造はしないでください。発熱、発煙、発火やバッテリーパック内の液が目に入り失明などの事故の原因になります。万一、バッテリーパックの液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い流してただちに医師の治療を受けてください。 ● このバッテリーパックは本機専用です。充電の際は必ずカメラに装てんして充電してください。バッテリーパックを本機以外に使用したり、市販の充電器等で充電すると、発熱、発煙、発火、破裂の原因になります。

リチウムイオンバッテリーパック
使用後はリサイクルへ

本製品の機能をフルに活用していただくためにも、アクセサリー類は当社製品のご使用をおすすめします。
市販されている他社製品、あるいは自作の製品を使用して生じた事故や故障については、当社では保証いたしかねます。

あなたが、実演や興業、展示物等を撮影したものは、個人で楽しむ等の他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物等のうちには、個人で楽しむ等の目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

● テレビは、ビデオ入力端子のあるタイプをご使用ください。

電波障害自主規制について：

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

● 航空機の機内や病院など、使用を禁止された場所ではカメラの電源をOFFにしてください。電子機器などに影響を与え事故の原因となります。

〈AC アダプター取扱い上の注意〉

● AC アダプターは長時間使用すると若干熱を持ちますが、故障ではありません。
● 長時間使用しないときは安全のためACアダプターをコンセントから抜いてください。（ACアダプターをコンセントから抜くときは先にプラグをカメラ本体から抜いてください。）
● カメラに電池をセットした状態で AC アダプターを使う場合、カメラの電源を OFF にして AC アダプターの抜き差しを行ってください。
● この AC アダプターは、本機カメラ専用です。火災や感電の危険防止のため、指定されたデジタルカメラ以外には使用しないでください。

⚠ 注意	● AC アダプターは必ず専用品をご使用ください。指定外のアダプターを使用すると思わぬ事故や火災の原因になることがありますので絶対におやめください。 ● コードを無理に折り曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、継ぎ足す等は絶対にしないでください。 ● 濡れた手で AC アダプターを抜き差ししないでください。感電するおそれがあります。

⚠ 注意	● コンセントからの抜き差しは必ずACアダプター本体を持って行ってください。カメラからの抜き差しはプラグを持って行ってください。コードを引っ張るとコードが傷ついたり断線したり火災や感電の原因になることがあります。 ● AC アダプターの傷、断線、プラグの接触不良などにお気づきのときは使用を中止して早めにご購入店または当社サービスステーションにご相談ください。

⚠ 警告	● プラグの抜き差しが不完全な状態で使わないでください。接触不良により発熱し、火災や感電の原因になります。 ● コードを加工したり無理な力を加えたりしないでください。コードが傷つき火災や感電の原因になります。芯線が露出するほど傷んだ場合は使用を中止し、ご購入店または当社サービスステーションにご相談ください。 ● カバーをはずしたり、分解、修理、改造をしないでください。感電する危険があります。 ● プラグにほこりがついた状態で使用したり、金属を近づけたりしないでください。電気が金属を伝わり、火災や感電の原因になります。ほこりがたまったときは、AC アダプターをコンセントから抜き、ほこりを取り除いてください。 ● 煙や異臭、異音がでたり、落下、破損したときは使用を中止してください。そのまま使用すると火災の原因になります。そのような場合は、ご購入店か当社サービスステーションにご相談ください。 ● ACアダプターは家庭用電源コンセント（AC100V 50/60Hz）以外にはつながないでください。指定外の電圧や電源で使用すると火災や感電の原因になります。

※ SD ロゴは商標です。
※ QuickTime™およびQuickTimeロゴは、ライセンスに基づいて使用される商標です。QuickTime は、米国およびその他の国々で登録された商標です。
※ 全ての会社名、ブランド名または商品名は、それらの所有者の登録商標または商標です。

各部の名称

《操作部》

“ 🌷/▲ ”ボタン（30ページ）
マクロ撮影または遠景撮影モードに切り替えます。

“ ⚡ ”ボタン（28ページ）
各種フラッシュ撮影モードを切り替えます。

モード切替レバー
撮影、再生、セットアップのモードを切り替えます。

“ ◁ ／ ▷ ／ △ ／ ▽ ”ボタン
各種メニューの選択や再生画像の順／逆送りなどに使います。

“ W ”ボタン／“ T ”ボタン
撮影時はズーミング、再生時は画像の拡大表示ができます。

“ ◢ ”ボタン
液晶の明るさ調節や各種メニューの設定に使います。

“ DISPLAY ”ボタン
“ 📷 ”撮影モードのとき、液晶モニターの表示を出したり、消したりします。

“ MENU ”ボタン
撮影時または再生時のメニューを出したり、消したりします。

“ POWER ”ボタン
カメラ電源をONまたはOFFにします。

シャッターボタン

《表示部》

セルフタイマー LED（赤）
（32ページ）
セルフタイマー撮影中は点滅、動画撮影中と再生時、セットアップ時は点灯します。

警告 LED（赤）
リチウムイオンバッテリーの充電状況とフラッシュの充電、カメラぶれ警告をお知らせします。

撮影時	フラッシュ充電中	点滅（約2回／秒）
	カメラぶれ警告	点滅（約4回／秒）
その他	バッテリー充電中	点灯
	バッテリー充電異常	点滅

スタンバイ LED（緑）
ピント合わせの状態とリチウムイオンバッテリーの充電完了をお知らせします。

カードアクセス LED（橙）
メモリーカードに画像などのデータを記録しているときに点滅します。
● 点滅中はカードカバーを開けたり、メモリーカードの取り出しは絶対に行わないでください。

液晶モニター
撮影時はビューファインダー、再生時やセットアップ時は画像や各種メニューを表示します。

《その他》

《液晶モニターに表示されるマーク》

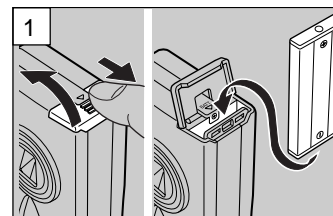
マクロ／遠景撮影モード→ 30 ページ
フラッシュモード→ 28 ページ
測光モード→ 45 ページ
合焦マーク：
　ピントが合ったときに点灯します。
カラーモード→36ページまたはWB（ホワイトバランス）モード→ 37 ページ
画質→ 33 ページ
撮影可能枚数
AE（絞り優先）モード→ 40 ページ
感度→ 44 ページ
長時間露出→ 42 ページ
　または露出補正値→ 35 ページ
電子ズーム→ 21 ページ
フォーカスゲージ→ 41 ページ：
　マニュアルフォーカス（MF）時のみ表示
撮影時のメニュー表示
日付→ 18 ページ：
　電源 ON 後、3 秒間表示します。
電池残量→ 15 ページ：
　電池の残り容量を表示します。
セルフタイマー→ 32 ページ：
　セルフタイマーの秒数も表示されます。

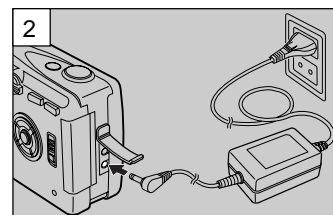
カメラの準備

同梱品について

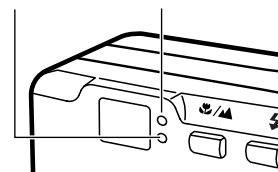
次の製品がそろっているかどうか、ご確認ください。

① カメラ本体
② マルチメディアカード
③ リチウムイオンバッテリーパック
④ AC アダプター
⑤ ビデオケーブル
⑥ ハンドストラップ
⑦ 取扱説明書（本書）
⑧ クイックスタートガイド
⑨ 保証書

電池の入れかたと充電のしかた

電池ぶたを開けて、バッテリーパック（同梱品）を入れます。

● バッテリーパックの入れる向きに注意してください。逆向きに入れた場合カメラは動作しません。

AC アダプターをカメラにつないで充電します。

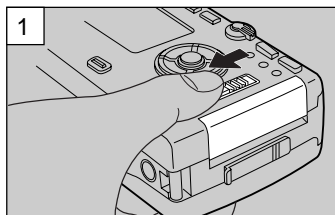
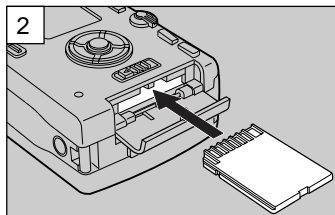
《充電時間》

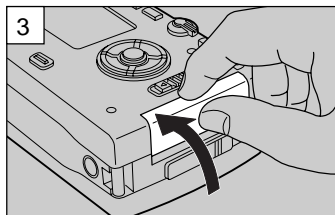
充電時間は約 5 時間です。

充電中は警告 LED が点灯します。充電が終わると警告 LED が消えスタンバイ LED が点灯します。

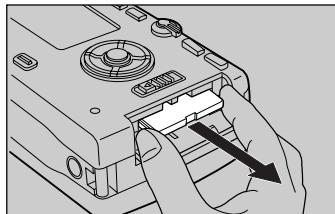
《充電の目安》

液晶モニターのバッテリー残量表示を目安に充電してください。

メモリーカードの入れかたと取り出しかた

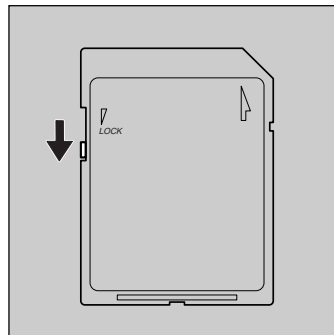
《入れかた》

カードカバー開放レバーをスライドしてカードカバーを開けます。

メモリーカードを入れます。

- メモリーカードは「カチッ」と音がして止まるところまで差し込んでください。
- メモリーカードの向きにご注意ください。

カードカバーを閉めます。

《取り出しかた》

カードカバー開放レバーをスライドしてカードカバーを開けてメモリーカードを取り出します。

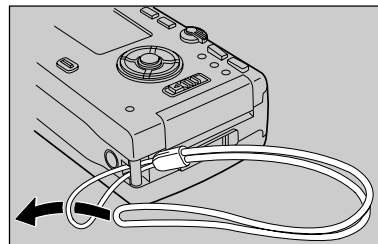
- メモリーカードを軽く一回押してから取り出してください。

ライトプロテクト（書込禁止）スイッチ

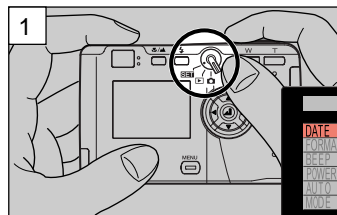
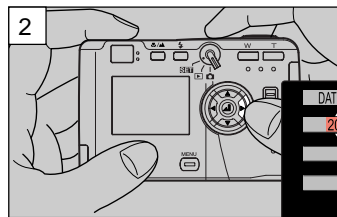
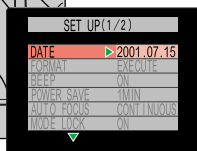
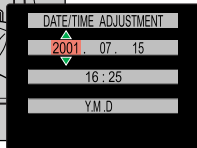
※SDメモリーカードのみ

SDメモリーカードにはライトプロテクトスイッチがついています。
このスイッチを下にスライドするとカードへのデータ書込が禁止され、カードに保存されている画像などのデータが保護されます。
なお、この状態のカードを使って撮影や消去などはできません。

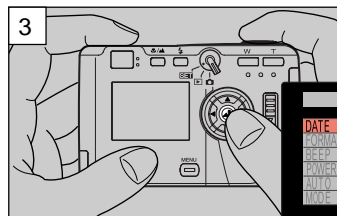
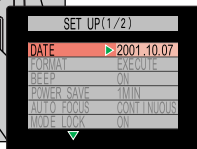
液晶モニターには“ライトプロテクト”と表示されます。

《ハンドストラップの取り付けかた》

図のように取り付けてください。

日付の設定

日付、時刻の設定と日付のならび順を設定します。

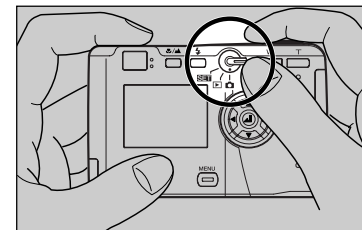
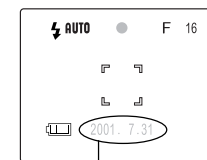
《操作》

モード切替レバーを“ SET ”に合わせます。

“ ▷ ”ボタンを押します。

日付設定の画面に変わります。
“ ◁ ”“ ▷ ”ボタンで移動
“ △ ”“ ▽ ”ボタンで数値等の変更

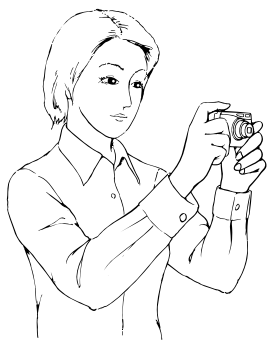
操作の中止→“ **MENU** ”ボタンを押します。（設定内容は操作前のものに戻ります。）

“ ◢ ”ボタンを押して、設定完了です。

メニューの表示に戻ります。

撮影の基本

液晶モニターを使って撮影する

正確な構図を決めるときは液晶モニターをお使いください。表示された通りの画像が撮影できます。

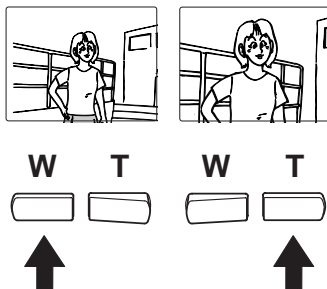
1. モード切替レバーを“ 📷 ”にして、カメラの電源をONにします。

電子音が鳴り数秒後、液晶モニターがつきます。

3秒間表示して消えます。

2. カメラぶれしないよう、図のように両手でしっかりとささえてください。

〈構えかたのコツ〉

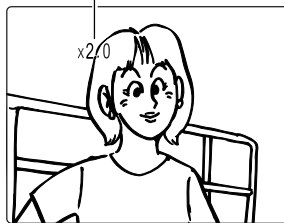
ピントが悪い画像の多くはカメラぶれが原因です。カメラぶれしないように自分にあったフォームを作る研究をしてください。

- 右人差し指をシャッターボタンの上にのせます。
- レンズやフラッシュ発光部に指がかからないようにします。
- 手にあまり力を入れず、静かにシャッターボタンを押します。
- 左手はカメラをしっかりささえます。
- 脇をしめてカメラを安定させます。

3. 液晶モニターを見ながら構図を決めます。

"**T**"ボタンを押すと被写体が拡大され、"**W**"ボタンを押すと縮小されます。

〈電子ズームでさらに拡大〉

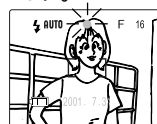
"**T**"ボタンを押して最大まで拡大して一旦指を離し、再度"**T**"ボタンを押してください。1.3倍、1.6倍、2倍の3段階で電子ズームの拡大ができます。

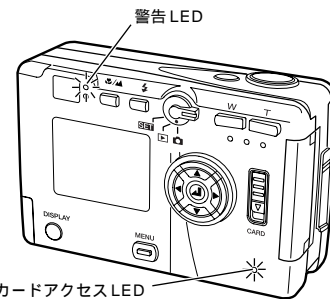
ここに拡大倍率が表示される

- 電子的な制御で拡大しているため、光学ファインダーでは確認できません。液晶モニターをONにしてお使いください。
- 液晶モニターが消えているとき、電子ズームはできません。
- 画質が［**T**］、［M］のとき、電子ズームはできません。［**S**］、［**F**］のとき、電子ズームをして撮影すると、画質は［**N**］になります。

4. シャッターボタンを押して撮影します。

① シャッターボタンを半押し（22ページ）して、合焦マークの点灯と電子音が"ピッピッ"と鳴ったらピント合わせ完了です。

② そのままさらに押して電子音が"ピッ"と鳴ったら画像を記録し始めます。

ピッ

一瞬黒くなった後、撮った画像が表示されます。

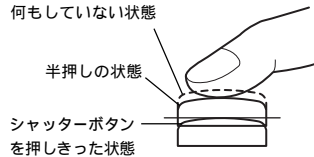
③ 記録中は警告LEDとカードアクセスLEDが点滅します。

〈撮影時のご注意〉

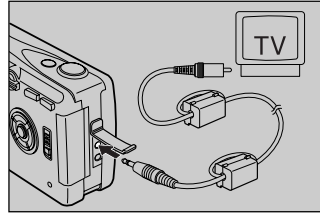
● 次の撮影は警告LEDの点滅が終わるまでお待ちください。

●“ 📷 ”撮影モードでお使いのとき、カメラに何もしないでしばらく放置すると、カメラが休止の状態になります。このときはシャッターボタンを半押しするか他のボタンを押すなどすると、撮影できる状態に戻ります。（詳しくは67ページをお読みください。）

● カードアクセスLED点滅中は、カードカバーを開けたり、メモリーカードを抜いたりしないでください。メモリーカードやデータを破損するおそれがあります。

〈半押しのこと〉

シャッターボタンを軽く押したとき、途中で止まるところがあります。これを半押しの状態といい、ピントと露出がオートセットされます。そのままさらに押すと画像の記録を開始します。

〈こんなこともできる〉

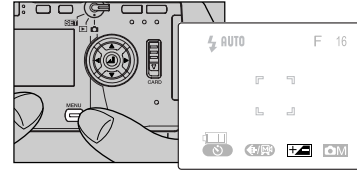
テレビ画面をビューファインダーにした撮影もできます。

テレビにつなぐと液晶モニターが消えてテレビ画面に被写体が表示されます。

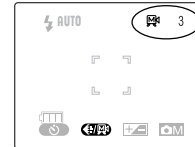
● このとき、液晶モニターは消えています。

● 接続は付属のビデオケーブルをご使用ください。

動画を撮影する

15秒間の簡単な動画が撮れる機能です。動画記録時のモニター表示は次のようになります。

①“ **MENU** ”ボタンを押します。

② ［ 🎞 ］を選び“ ◢ ”ボタンを押して［ 🎞 ］動画に設定します。

③ シャッターボタンを押すと動画の記録を始め、15秒後に自動で記録を終了します。

記録可能な動画の撮影本数（1本当たり最大15秒間）

● 15秒以内で止めるときは、シャッターボタンを押します。

〈ご注意〉

● 動画撮影中、光学ズームはできますが、電子ズーム（21ページ）は使えません。

● パソコンで見るときは、Quick Time 4.1以上をインストールしてください。

光学ファインダーを使って撮影する

液晶モニターをOFFにして使うと電池の消費を節約できます。
液晶モニターのON/OFF→82ページ

1. モード切替レバーを“ 📷 ”にして、カメラの電源をONにします。

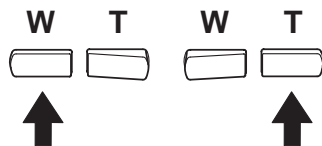
2.“ **DISPLAY** ”ボタンを押して、液晶モニターを消します。

3. カメラぶれしないよう、図のように両手でしっかりとささえてください。

光学ファインダーを覗いて構えているとき

● 20ページの「構えかたのコツ」をご覧ください。

4. 光学ファインダーを見ながら構図を決めます。

“ **T** ”ボタンを押すと被写体が拡大され、“ **W** ”ボタンを押すと縮小されます。

〈光学ファインダーを使うときの注意〉

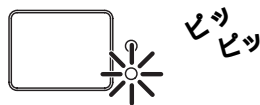
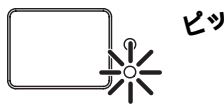
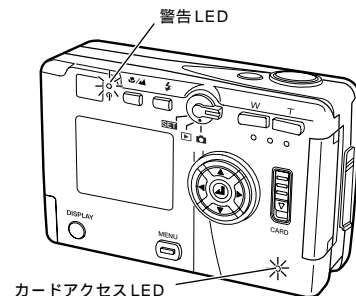
光学ファインダーを使ったときは、被写体との距離（撮影距離）にご注意ください。

撮影距離が近いほど、構図のズレ（パララックス）が起こります。

正確に構図を決めるためには液晶モニターを使った撮影をおすすめします。

● パララックス→31ページ参照

5. シャッターボタンを押して撮影します。

① シャッターボタンを半押しして、スタンバイLEDの点灯と電子音が“ ピッピッ ”と鳴ったらピント合わせ完了です。

② そのままさらに押して電子音が“ ピッ ”と鳴ったら画像を記録し始めます。

③ 記録中は警告LEDとカードアクセスLEDが点滅します。

● 警告LEDの点滅が終わりましたら、次の撮影ができます。

撮影モードの機能を紹介します。
撮影状況に合わせてお使いください。

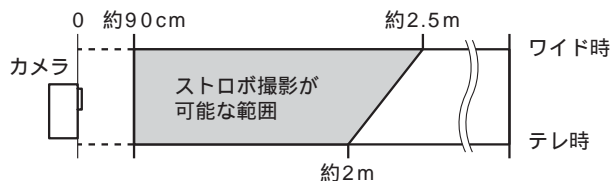
液晶モニターを消してお使いになる方へ

機能を設定するときや既に設定した機能を確認するときは、
液晶モニターをつけてください。

フラッシュ撮影の機能を選ぶ

撮影状況に合わせてフラッシュ撮影の機能を使い分けてみましょう。

《フラッシュ光の届く距離》

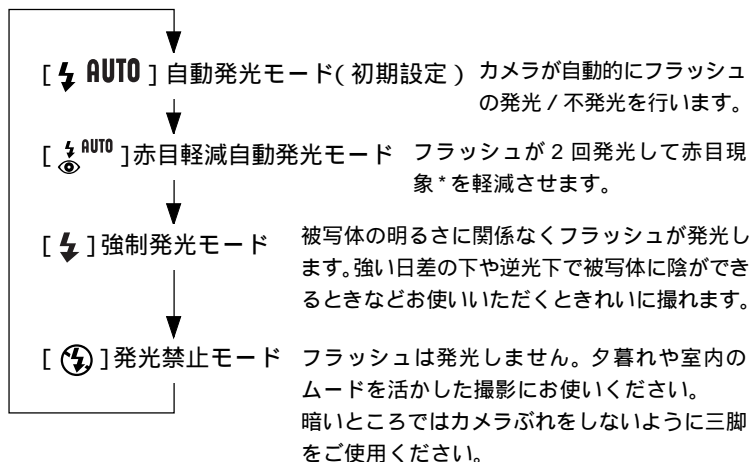
感度：標準時

《フラッシュ撮影モードの種類》

“ ”ボタンを押すと次のようにマークが変わります。

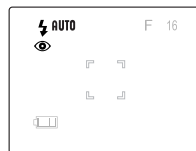
[AUTO] 自動発光モード（初期設定） カメラが自動的にフラッシュの発光／不発光を行います。

[AUTO] 赤目軽減自動発光モード フラッシュが 2 回発光して赤目現象 * を軽減させます。

[ ] 強制発光モード 被写体の明るさに関係なくフラッシュが発光します。強い日差の下や逆光下で被写体に陰ができるときなどお使いいただくときれいに撮れます。

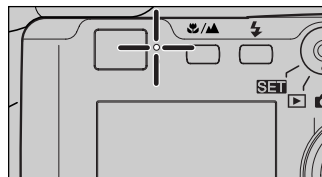
[ ] 発光禁止モード フラッシュは発光しません。夕暮れや室内のムードを活かした撮影にお使いください。
暗いところではカメラぶれをしないように三脚をご使用ください。

* 赤目現象：人物をフラッシュ撮影すると、まれに瞳が赤く写ることがあります。これを赤目現象といい、眼球に入った光の反射（眼底反射）によって起こる現象です。

《操作》

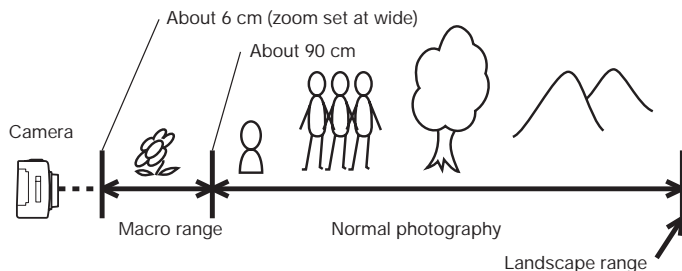
① “ ”ボタンを押してフラッシュモードを選びます。

赤目軽減自動発光モードに設定したときの表示

② シャッターボタンを押して撮影してください。

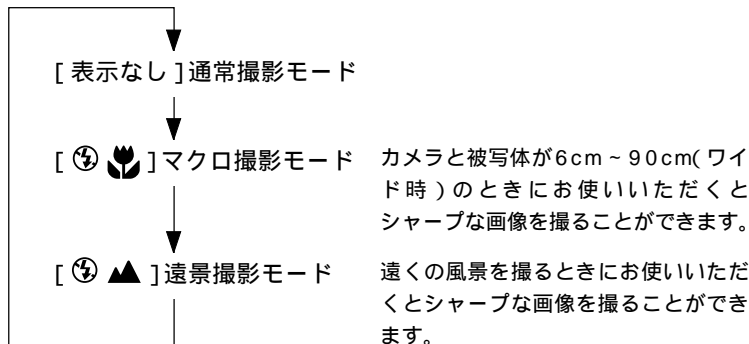
〈ご注意〉

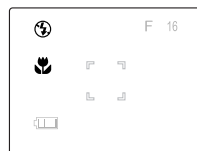
● シャッターボタンの半押し時に警告ＬＥＤが点滅するときは、シャッタースピードが遅くなります。カメラぶれを防ぐため、三脚等をご使用ください。

マクロ撮影と遠景撮影

撮影距離（被写体とカメラの距離）によってマクロ撮影と遠景撮影の機能を使い分けましょう。

《“ マクロ／遠景 ”の使いどころ》

“ 🌷/▲ ”ボタンを押すごとに次のようにマークが変わります。

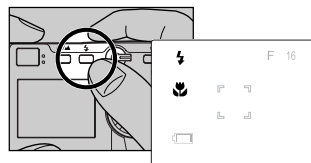
カメラと被写体が6cm～90cm（ワイド時）のときにお使いいただくとシャープな画像を撮ることができます。

遠くの風景を撮るときにお使いいただくとシャープな画像を撮ることができます。

《操作》

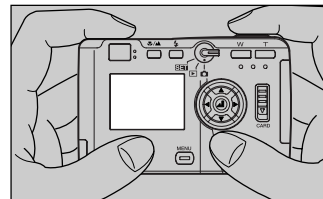
① “ 🌷/▲ ”ボタンを押してモードを選びます。

マクロ撮影モードに設定したときの表示

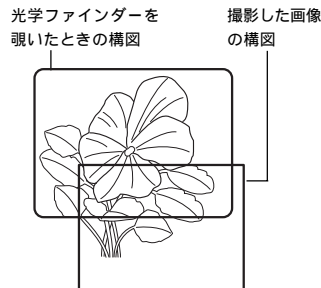
② シャッターボタンを押して撮影してください。

〈こんなこともできる〉

マクロ撮影モードのとき“ ⚡ ”ボタンを押すとフラッシュ発光が可能になります。

ただし、被写体が近いのでフラッシュの光が強めにあたります。“ 露出補正 ”を使って明るさを調節してください。

〈ご注意〉

液晶モニターを消して光学ファインダーで撮影しているとき、マクロ撮影モード［⚡🌷］に設定すると、シャッターボタンを半押ししたときに液晶モニターがつきます。

光学ファインダーでのマクロ撮影はパララックス * が起こりますので、液晶モニターを使った撮影をおすすめします。

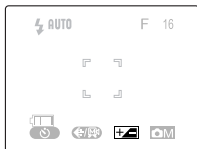
* パララックスとは、光学ファインダーを覗いたときの構図と撮影した画像の構図がズレてしまうことです。

セルフタイマーを使う

記念写真など自分も写りたいときや接写するときなどにお使いください。

[⏱10]：シャッターボタンを押してから10秒後にシャッターが切れますので、自分もいっしょに写りたいときにお使いください。

[⏱2]： シャッターボタンを押してから2秒後にシャッターが切れますので、マクロ撮影や長時間露光でのカメラぶれを防ぎたいときはこちらをお使いください。

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押します。

②“ ◁ ”ボタンを押して［⏱］を選びます。

③“ ◢ ”ボタンを押して、[⏱10]（または［⏱2］）を選びます。

セルフタイマー10秒を選んだときの表示

④“ **MENU** ”ボタンを押すと、メニュー表示が消えます。

⑤ シャッターボタンを押して撮影してください。

● 通常撮影に戻すときも同じ操作です。

画質を選ぶ

画質を変えたいときや動画を撮りたいときにお使いください。

画　質	画素数	容　量
[**N**] ノーマル	1024 × 768	約280KB
[**F**] ファイン	2048 × 1536	約1MB
[**S**] スーパーファイン	2048 × 1536	約2MB
[**T**] TIFF-RGB (ティフ・アールジービー)	2048 × 1536	約9.1MB
[動画アイコン] 動画	320 × 240	（最大15秒）

● 画質が“ T ”TIFF-RGBではカラーモードの白黒とセピアは選択できません。

● 容量はあくまでも目安です。被写体の絵柄によってファイルサイズは変わります。

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押します。

②“ ◁ ”ボタンを押して［画質/動画］を選びます。

③“ ◢ ”ボタンを押して、希望の画質または動画を選びます。

ノーマルを選んだときの表示

④“ **MENU** ”ボタンを押すと、メニュー表示が消えます。

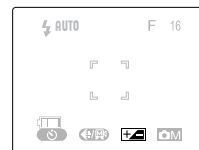
⑤ シャッターボタンを押して撮影してください。

《画質を選ぶときの目安》
画質を重視する場合は［**S**］または［**F**］、テレビで見たい場合は［**F**］または［**N**］、パソコンなどのホームページ作成など小さい画像サイズでよい場合は［**N**］にして撮影してください。拡大するなど特に画質を重視する場合は［**S**］または非圧縮形式の［**T**］をお使いください。
なお、［**T**］は画像サイズが約9.1MBとかなり大きくなりますので、メモリーカードの容量にご注意ください。

露出を補正する

画像の明るさを少し変えたいときにお使いください。

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押します。

②“ ◁ ”または“ ▷ ”ボタンを使って［+/-］を選び“ ⏎ ”ボタンを押します。

③“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って、希望の補正値を選び、“ ⏎ ”ボタンを押します。

+0.7を選んだときの表示

④“ **MENU** ”ボタンを押すと、メニュー表示が消えます。

⑤ シャッターボタンを押して撮影してください。

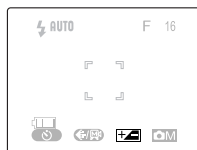
● フラッシュ撮影のとき、露出補正の値は、液晶モニターの表示にかかわらず、±1.0までになります。

カラーモードで白黒やセピアの画像を撮影する

通常のカラー撮影の他に、白黒とセピアが選べます。

● 画質が ［**T**］TIFF-RGBのとき、白黒とセピアは選択できません。

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押します。

②“ ▷ ”ボタンを押して［◘M］を選び“ ◢ ”ボタンを押します。

③［**カラーモード**］を選び、“ ▷ ”ボタンを押します。

④“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**セピア**］（または［**白黒**］）を選びます。

⑤“ ◁ ”ボタンを押します。

⑥“ **MENU** ”ボタンを2回押して、メニュー表示を消します。

セピアを選んだときの表示

⑦ シャッターボタンを押して撮影してください。

ホワイトバランスを調節する

画像の色調は光源の種類により変化します。撮影状況に合わせて次のモードを選んでください。

［**AUTO**］(初期設定) カメラがホワイトバランスを自動で設定します。

［☀］ 太陽光

［ ］ 白熱電球

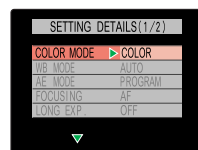
［ ］ 曇天

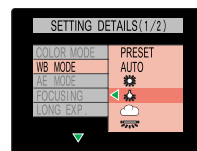
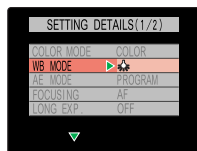
［ ］ 蛍光灯

［**プリセット**］ ホワイトバランスをマニュアルで設定したいときに使います。設定のしかたは 39 ページをご覧ください。

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押します。

②“ ▷ ”ボタンを押して［◘M］を選び“ ◢ ”ボタンを押します。

③“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**WB モード**］を選び、“ ▷ ”ボタンを押します。

④“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［ ］（または［☀］、［ ］、［ ］）を選びます。

⑤“ ◁ ”ボタンを押します。

⑥“ **MENU** ”ボタンを2回押して、メニュー表示を消します。

［ ］を選んだときの表示

⑦ シャッターボタンを押して撮影してください。

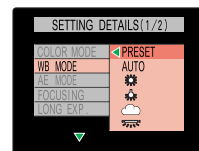
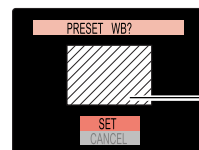
《プリセットの設定と撮影の操作》

ホワイトバランスをマニュアルで設定したいときは、この機能をお使いください。

被写体の色の基準となる白い部分を任意に設定して撮影することができます。もっと厳密に設定する場合は、白い用紙などを使ってください。

● プリセットは、電子ズームをしていない状態で行ってください。

《操作》

①［**プリセット**］を選んで“ ”ボタンを押します。

② ホワイトバランスの基準となる被写体にカメラを合わせます。

この範囲いっぱいにホワイトバランスの基準となる白い部分を入れてください。

③“ ”ボタンを押すと設定完了です。

④“ **MENU** ”ボタンを2回押して、メニュー表示を消します。

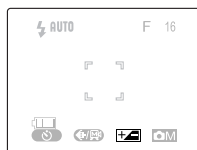
プリセットしたときの表示

⑤ シャッターボタンを押して撮影してください。

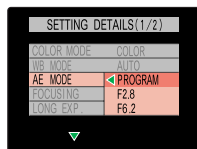
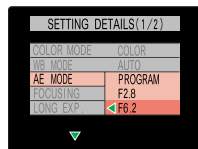
絞り優先を設定する（AE モード）

初期設定では、カメラが自動的に絞りとシャッタースピードを設定するプログラムモードに設定されています。
AE モードにして、絞り値を F2.8 または F6.2（共にワイド時）に固定すると、カメラが被写体に合ったシャッタースピードを設定します。

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押します。

②“ ▷ ”ボタンを押して［M］を選び“ ”ボタンを押します。

③“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**AE モード**］を選び、“ ▷ ”ボタンを押します。

④“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**F6.2**］（または［**F2.8**］）を選びます。

⑤“ ◁ ”ボタンを押します。

⑥“ **MENU** ”ボタンを2回押して、メニュー表示を消します。

F6.2 を選んだときの表示

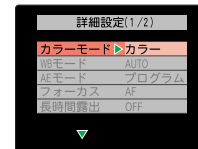
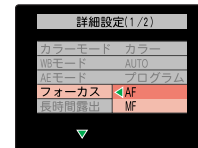
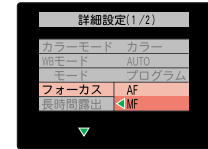
⑦ シャッターボタンを押して撮影してください。

マニュアルフォーカスで撮影する

AF（オートフォーカス）とMF（マニュアルフォーカス）が選べます。（初期設定はAFが設定されています。）MFに設定すると、フォーカスゲージが表示されます。撮影距離を指定して撮影してください。

《操作》

①“ **MENU** ”ボタンを押します。

②“ ▷ ”ボタンを押して［📷M］を選び“ ◢ ”ボタンを押します。

③“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**フォーカス**］を選び、“ ▷ ”ボタンを押します。

④“ △ ”または“ ▽ ”ボタンを使って［**MF**］（または［**AF**］）を選びます。

⑤“ ◁ ”ボタンを押します。

⑥“ **MENU** ”ボタンを２回押してメニュー表示を消します。

MFを選んだときの表示

⑦“ ◁ ”または“ ▷ ”ボタンを使って撮影距離を指定して、撮影してください。

● 撮影距離の90cmではピントが合わない場合があります。